

県民との意見交換実施状況一覧（主な意見）

参考資料4

- 全体 p 1～13
- 【拡大版】地域戦略会議 p14～17
- 地域懇談会 p18～20

平成29年6月5日現在

※しあわせ信州創造プラン「施策の総合的展開」に沿って整理しています

| 会議名 | 日時 | 参加者 | 人数 | 分野※ | 主な意見 |
|------------------------------|----------|-----------------|----|-------|--|
| ジモト未来会議 ＜企画振興部＞ | H29.6.5 | 県出身の首都圏に進学した大学生 | 20 | 産業・雇用 | <ul style="list-style-type: none"> ・若者に県内企業の「かっこいい」ところや、長野県だからこそできる魅力的な働き方を発信してほしい ・長野県で働くことのイメージができなくて不安 ・首都圏で就活していると、長野県の企業情報が全然手に入らない |
| | | | | 地域づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・便利さや魅力に気づいていない ・情報発信について、ターゲットの絞り方や方法など弱い ・地元でやりたいことがないという固定観念がある ・空き家や空きスペースを使うという意識が低い ・地域との密着、県内での交流、グローバル化を同時にやらないと多様化はできない |
| | | | | 教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校の枠を超えたコラボレーション（県内高校どうしや、都会の高校と県内高校）や外国人との交流があればいい ・学校と地域の繋がりをもっと作りたい |
| 知事とのタウンミーティング（東信） ＜企画振興部＞ | H29.6.3 | 一般県民 | 20 | 産業・雇用 | <ul style="list-style-type: none"> ・働き方は沢山あるはずだが、会社に勤めなくても「何とかなる」という感覚が持てないのではないか |
| | | | | 子育て | <ul style="list-style-type: none"> ・女性活躍の「活躍」が「家の外で仕事をする事」だとすると、子を産み育てることとの両立が難しいので、「活躍しない」選択肢も欲しい ・子育て中の女性も輝いている、活躍しているということを認識し、子育て期間がいかにか大事な時間かを男性も理解すべき ・出生数減少について、個人のやりたいことを尊重する余り、社会全体の公平性が阻害されるのではないか ・起業などの夢があるが、一方で子どもを産みたいという葛藤がある |
| 建設部信濃会との意見交換 ＜建設部＞ | H29.5.31 | 会員 | 4 | 産業・雇用 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域での就業機会確保のため、建設業など地域に根差した産業を活性化。そのために、多様な人材の活用や生産性の向上、都市緑化フェアの成功、国体招致などに取り組む |
| | | | | 安全 | <ul style="list-style-type: none"> ・集落孤立化を防ぐ道路整備やインフラの長寿命化、建築物の耐震化の推進などにより、災害に強い県土を作り、安全・安心が確保される |
| | | | | 社会基盤 | <ul style="list-style-type: none"> ・高規格幹線道路や中央リニア新幹線及び関連するインフラの整備 ・信州まつもと空港の利活用推進 |

| 会議名 | 日時 | 参加者 | 人数 | 分野※ | 主な意見 |
|---------------------------------|----------|-------|----|-------|---|
| 長野県ゆかりの企業経営者との意見交換 ＜東京事務所＞ | H29.5.31 | 企業経営者 | 1 | 産業・雇用 | ・素敵な観光地は多くあるが、主要駅と観光地、または観光地間の交通アクセスが悪い。海外からの観光客や高齢の観光客は自動車をあまり使わないので、他県と比べると不利。アイデアを出し合って解決してほしい |
| | | | | 健康・福祉 | ・先端・最新医療を提供する病院は必ずしも大都会である必要はない。長野県は健康長寿、豊かな自然、空気や水が綺麗など素晴らしい要素が揃っているため、世界中から患者を呼び込めないか。1つの病院で全てを賄う必要はなく、病院間で連携をすれば良い |
| | | | | 教育 | ・近代オリンピックはスポーツと文化の祭典である。長野県はオリンピック開催県であるし、美術館も多いので、東京オリンピックを機に文化芸術による観光振興を図れないか ・文化芸術に精神性・神秘性(日本らしさ)を付け加えてはどうか。長野には豊かな自然に加え、神秘的な場所が数多くあり、神話のふるさととも言える。特に戸隠は適地なので、ストーリー性を持たせ、もっと素敵な観光地に出来るのではないか |
| 長野県ゆかりの企業経営者との意見交換 ＜東京事務所＞ | H29.5.30 | 企業経営者 | 1 | 産業・雇用 | ・グリーンシーズンのポイントが確立されていない。自然体験型のプログラムを数多く用意し、3、4日間滞在することができるメニューを充実させる必要がある ・欧米からの観光客はアジア圏の観光客と違い滞在期間が長く経済効果が大きい。これからは長期滞在型の観光に注力するべきだと思う ・外国人観光客に対し紙ベースのプロモーションには限界があるので、ブロガーなどをうまく使って、情報を拡散させるなどの取組が効果的ではないか |
| 産業立地推進委員との意見交換 ＜東京事務所＞ | H29.5.29 | 委員⑦ | 1 | 産業・雇用 | ・長野は製造業を誘致するには地理的に限界があり、経済の流れとして長野への直接的な投資は見込めない。製造業を誘致したとしても人材の奪い合いになるだけなので、労働集約型から知識集約型へ産業の転換を図らなくてはならない ・製造業も大事だが、伝統産業も他との違いを出すには強みとなるはず ・日本酒やワインは新潟や山梨よりいいものを生産しているのに、東京の人はそれを知らない。ブランド化はコンセプトが整理されていないと認知されないし、当事者にプライドや意欲がないと成り立たないので、県が市町村等を支援し、ブランド化をもっと積極的に進めるべき |
| | | | | 健康・福祉 | ・医療・介護分野を産業として根付かせたらどうか。需要は高いし、全国に長野県の強みをアピールすれば、県外に出てしまった人も含め、長野県に魅力を感じて移り住んでくれる |
| | | | | その他 | ・行政は選択と集中を明確にし、強いところをさらに強くし、そこが全体をリードするという発想に転換すべきではないか |
| ながの子ども・子育て応援 県民会議 ＜県民文化部＞ | H29.5.26 | 総会委員 | 20 | 子育て | ・子どもがへこたれない力を身に付けてほしい ・保育サービスの量の拡充に加えて、質の向上が図られていけばいい ・子どもを家庭だけで育てたり、学校だけに頼ることは困難なので、「どの子ども我が子」として、地域で子どもを育てる ・社会教育の振興など、地域の教育力の再興 |
| 産業立地推進委員との意見交換 ＜東京事務所＞ | H29.5.26 | 委員⑥ | 1 | 産業・雇用 | ・IoTは今後面白い分野。農業、観光、スポーツなど、あらゆる分野に関係するすそ野の広い産業だと思う ・IoT活用は、IT技術だけではなく、物流などの他産業との連携が不可欠。この分野を発展させるためには、経済産業省と総務省が十分連携してほしいが、県にもお願いしたい ・人間の脳は医学的に未開の領域であり、これが新しい産業に結びつく可能性がある。10年、20年先を考えるのであれば、可能性にかけてみるのも面白いのではないか |
| | | | | 教育 | ・新たな県立大学は、今後の高等教育を考えたときに面白いと思うので期待している |

| 会議名 | 日時 | 参加者 | 人数 | 分野※ | 主な意見 |
|--|----------|------------------------------|----|-------|--|
| 産業立地推進委員との意見交換 ＜東京事務所＞ | H29.5.25 | 委員⑤ | 1 | 産業・雇用 | ・これからの産業振興は特徴を持たせる必要があると思う。10年、20年後を見据えると、IoTや再生医療などが面白いのではないかと |
| | | | | 教育 | ・長野県の子どもたちの学力が低下傾向にあると聞く。産業と教育を絡めて筑波のような研究学園都市がつかれないか。研究者の街が出来ると、そこの子どもたちの学力が上がり、それを魅力に感じ移住してくる者がいると思う |
| ワイン用ブドウ栽培者との意見交換 ＜北アルプス地域振興局＞ | H29.5.24 | (株)ヴィニョブル 安曇野 社長 | 2 | 産業 | ・ワイン用ブドウ栽培の一番の課題は鳥獣被害 ・ある程度の数のワイナリーが出来て、ワイナリー巡りが出来るような地域になればいい |
| 若者との意見交換 ＜北アルプス地域振興局＞ | H29.5.19 | ヤング・パワー・バンク | 1 | 地域づくり | ・既に住んでいる住民のコミュニティと、移住してきた住民のコミュニティとで分かれてしまっている。それぞれのコミュニティの垣根を越えるような、両方のコミュニティが交わる事が出来れば、定住にも繋がる ・若者の定住支援に高校生を巻き込む事が出来れば面白いのではないかと |
| 村づくり応援隊との意見交換 ＜上伊那地域振興局＞ | H29.5.18 | 村づくり応援隊 (信州大学農学部 サークル) | 15 | 産業・雇用 | ・ゆっくり観光をしたいので、メインの観光地から自転車や徒歩で周遊できる範囲を魅力あるものにするための取組が必要 ・地域の特産品や観光地について、子どもの頃から教える取組が必要 ・情報発信や相談窓口一本化など、新規就農を希望する人への支援を充実 ・地域の農産物をアピールするためにも、東京オリンピックの食事に使ってもらえるような取組ができないか ・安さに重きを置いている消費者が多いので、農業体験などを通じた意識改革が必要 |
| 産業立地推進委員との意見交換 ＜東京事務所＞ | H29.5.18 | 委員④ | 1 | 産業・雇用 | ・化学工業の企業施設は内陸部には作りにくいだが、研究機関ならばそれも可能。長野のような環境が良いところには研究機関も進出しやすいのではないかと |
| | | | | 社会基盤 | ・千曲市が新幹線の新駅を誘致しているが、隣の長野市は一線を画しているように見える。このような事業は市町村ではなく、「地域」としてとらえて考えるべきものであり、市町村間の壁を低くするためにも、県には努力・協力をしてもらいたい |
| 電気通信事業者との意見交換 ＜企画振興部＞ | H29.5.17 | 携帯電話事業者 | 4 | 社会基盤 | ・今後5Gが整備されることで、多くの人が集まる場所で同時の映像配信が可能になり、スタジアム等で観客がリアルタイムな映像と関係データをスマートフォンで同時に取得して楽しむなど、映像配信の可能性が広がる ・モバイル端末機能は、カメラ・画像の次に何が進展するか見いだせないが、VRやARの高速処理という可能性があるため、VRやARを使ったコンテンツ制作及び広報・情報提供への活用 |
| 19市及び県保健福祉担当 部長等会議 ＜健康福祉部＞ | H29.5.17 | 19市健康福祉部長 県保健福祉事務 所長 | 29 | 健康・福祉 | ・飯山日赤の医師不足や地域の開業医が高齢化するなど課題が多い。観光などにも影響が及ぶ ・一層の医師確保が重要 |
| 知事と伊那谷経済界との 意見交換会 ＜建設部・南信州地域振興局＞ | H29.5.17 | 地元経済界 | 11 | 産業・雇用 | ・カジノの誘致など思い切った検討も必要 ・観光面の対応は、外の間人が何を望んでいるかしっかり調査する必要がある。また、一流の観光コンサルタントの招へいが必要 ・農産物を信州ブランドでしっかりマーケットを作り、地元産だけでなく、県全体を含め都会の人へ提供できればいい |
| | | | | 地域づくり | ・女性が暮らしやすい社会になれば、自然に人口も増えるのではないかと |
| | | | | 教育 | ・人材育成について、特色ある高校づくり(観光、調理学科など)などに取り組んでほしい |

| 会議名 | 日時 | 参加者 | 人数 | 分野※ | 主な意見 |
|--|----------|---------------|----|-------|---|
| 産業立地推進委員との意見交換 ＜東京事務所＞ | H29.5.17 | 委員② | 1 | 産業・雇用 | <ul style="list-style-type: none"> ・長野県は健康長寿で空気や食べ物もおいしく、他の県から見れば羨ましい県だが、真面目で奥ゆかしい県民性のせいか、それが前面に出てこない。PRをもっとうまく出来ないか ・長野には良いものが揃っているのにPRが上手くないから、「長野」というブランドイメージを確立できていない。長野を多くの人に知ってもらい、長野に来てもらい、長野のものを買ってもらうための努力をしてほしい ・長野県の素晴らしい農産物をもっと海外に紹介するため、例えば外国人を含めた若者に補助金を出して農業技術を学ばせ、その成果物で品評会を開き、優秀な若者には賞金と海外での販売や留学の機会を与えるなど、個々の事業ではなくパッケージで考えれば優秀な若者が興味を示し集まるのではないか ・企業を誘致するという発想は古い。今は「対象をどのように巻き込むか」ということ |
| | | | | 教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・県立大学が出来れば、多くの人を呼び込むことができる。固定客を見つけるために、多様性を受け入れる環境等が必要で、海外からの若者を多く受け入れるようにしてもらいたい |
| 産業立地推進委員との意見交換 ＜東京事務所＞ | H29.5.17 | 委員③ | 1 | 地域づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・医療や介護の取組を明確にし、PRすることでリタイアした中高年だけでなく、若い世代も長野県に興味を持ち、移り住んでくれるのではないか |
| | | | | 教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校長は卒業生の方が、学校への愛着もあるので、課外活動だけではなく、学業にも積極的に取り組むのではないか ・学校の先生(特に義務教育)は多忙であり、精神的につらいのも良く分かる。それが学力低下の一因かもしれない |
| 長野県産業人材育成支援 ネットワーク会議 ＜産業労働部＞ | H29.5.16 | 会員 | 30 | 産業・雇用 | <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくり産業にかかわる職業教育がなくなってしまう危惧があるので、長野県の人材育成の早道として農業、工業等の職業高校を復活させてほしい ・次期計画を作るにあたり、どの程度の技術レベルの人材が必要か、人材像を提示した上で、人材育成を産学官連携で行う ・外国人の活用先進的な県を目指していく必要がある。施策段階や教育段階で長野県が積極的に国際化することで、人材確保の活路を見出すことができるのではないか |
| 平成29年度長野林政協議会 第1回総合委員会 ＜林務部＞ | H29.5.16 | 中部森林管理局 職員 | 40 | 産業・雇用 | <ul style="list-style-type: none"> ・伐採から造林までの一貫作業システムを構築することによる造林コスト低減により、森林所有者の負担軽減を図ることで、持続可能な森林が維持されるようになればいい ・県産材の利用の促進により、県内の森林・林業の活性化が進む ・ニホンジカなど獣害対策が促進されることで、農林業被害が軽減されるとともに高山植物など豊かな自然環境が維持される |
| 地域づくりネットワーク長野県 協議会上伊那支部総会 ＜上伊那地域振興局＞ | H29.5.16 | 会員 | 20 | 地域づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・今までと同じでは人が集まらないので、今までとちょっと違った、偏った特色を出す取組も必要 ・県として打ち出せるものは美しい景観なので、景観への一層の取組が必要 ・二地域居住やインバウンドなど、人を外から呼び込む取組が必要 |
| | | | | 社会基盤 | <ul style="list-style-type: none"> ・リニア中央新幹線の開業を契機として、県全体の交通アクセスを向上するための取組が必要 |

| 会議名 | 日時 | 参加者 | 人数 | 分野※ | 主な意見 |
|---|----------|------------------|----|-------|---|
| 産業立地推進委員との意見交換 ＜東京事務所＞ | H29.5.16 | 委員① | 1 | 産業・雇用 | <ul style="list-style-type: none"> ・近い将来、リニア中央新幹線が開通することで時間的距離が縮まるので、このことに留意しながら観光や産業施策を検討してほしい ・農業は10年後、20年後を見据えて、精密産業など優位性のある分野で培ったノウハウを農業分野の機械化に反映するなど、機械化を一層推進してはどうか。例えば、LEDを活用した野菜の工場生産など「農工業」という発想で取り組んでみてはどうか ・筑波学園都市が科学万博から発展を始め、研究・開発から製造へと地域が発展していったように、長野県に第2の筑波学園都市を作ることはいかだろうか ・産学官の連携に力を入れてほしい。南信の人は名古屋を見ているので、県の北部は信州大学、南部は名古屋大学と、地域で連携する大学を分けることもいいのではないか |
| | | | | 環境 | <ul style="list-style-type: none"> ・間伐材のチップでのバイオマス発電は、大規模施設だと臭気や水質など環境への影響も大きく資金が必要だが、小規模であれば環境への影響も小さく、資金もかからないので長野県におすすめの発電ではないか |
| 知事とのタウンミーティング(北信) ＜企画振興部＞ | H29.5.14 | 一般県民 | 30 | 地域づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・ロールモデルが近くにいなかったり、固定観念が強く、女性の活躍が遅れている ・障がい者や外国人も含めた様々な人を認められるようになるには、小さい頃から当たり前色々な人が周りにいる環境や教育が重要 ・地域を知り、良くしていくためには、まず地域を好きになり、主体的に動くこと |
| | | | | 教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育と医療がしっかりしているところに人が集まる ・個人の特性に合わせた複線的な教育が必要 ・学力や関心に応じて、他の学校の授業も受ける単位互換制の仕組みがあると良い ・生涯にわたって学べる環境づくり |
| 地域のキーパーソンとの意見交換 ＜南信州地域振興局＞ | H29.5.12 | 飯田市美術博物館 学芸係長 | 1 | 地域づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民、日本国民、外国人に向け、南信州地域を“日本文化の学びの場”“日本文化の発見と感動の場”とする ・民族芸能伝承者を含む地域住民が内外で交流する機会を創出する ・祭り・民俗芸能や周辺文化を通年で享受できる環境を整備する |
| 上伊那地域戦略会議 ＜上伊那地域振興局＞ | H29.5.10 | 上伊那地域の 市町村長 | 8 | 地域づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・若い人にとって楽しい魅力ある地域を作ることが大事であり、今までとは少し違った感度が必要 ・県と広域圏、市町村の向かう方向の一致点を明確にすると、より実効性が高まる取組ができる ・人のやる気、盛り上がり、単発ではなく、沸々と湧き上がっているような地域づくりが必要 ・自然と景観は大事だが、それだけでは生活できないので、コンテンツ等の検討が必要 ・人口の自然減には産婦人科医の確保、社会減には小中高一貫の郷土愛教育が必要 |
| 天竜川鷺流峡復活プロジェクトとの 意見交換会 ＜環境部・南信州地域振興局＞ | H29.5.10 | プロジェクトメンバー | 15 | 地域づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・経済性だけではなく、環境や防災の観点の重視 (例えば、売れる木だけではなく、再生可能エネルギーとして利用できる竹などによる資源循環) ・竹(メンマに加工)の地域の食としての活用 ・便利さの追求から、心の豊かさ、生活の質への転換 (惣菜用のマイパッケージの普及、子どもに不慣れた環境で生きる力をつけさせる大人の育成) |
| | | | | 環境 | <ul style="list-style-type: none"> ・親水的な河川環境の整備 ・子どもの頃からの環境意識の向上(不法投棄防止など)や習慣化(ごみの出し方など) |

| 会議名 | 日時 | 参加者 | 人数 | 分野※ | 主な意見 |
|--|----------|--------------------|----|-------|---|
| 信州大学教育学部生と長野県教育委員会との懇談会 ＜教育委員会＞ | H29.4.28 | 信州大学教育学部生 三崎陸教授 | 8 | 教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・信州で生まれ育ち信州しか知らないよりも、他県と比較し、他県の良さを知ることで見えてくる信州の良さがある ・アメリカでは多様性や、発達障がいが目立たない。日本は皆平均を目指してきたから目立ってしまう。違いを受容できる教師になりたい ・幼保・小・中・“特”・高の連携が大事 ・多様な学習機会の提供のためには、遠隔授業の活用だけではなく、近隣の学校と連携を取ることも大事 ・保護者の学びの機会を学校側が周知してあげられるような仕組みづくりはできないか |
| 次期総合5か年計画×SHIP 「写真を撮って、信州の未来を語ろう」 ＜SHIP、企画振興部＞ | H29.4.27 | 一般県民 | 30 | 産業・雇用 | <ul style="list-style-type: none"> ・畑や耕作機、車、住まいなど様々なシェアにより、異世代や異文化の交流が生まれ、若者や女性の活躍につながるのではないか ・人がどんどん集まり、担い手ができ、産業が盛り上がるという流れが出来れば良い ・当然にあるものにプレミアム感を付けたりして、アピールをしてはどうか |
| | | | | 教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・大人が学ぶ場所が必要 ・「やまほいく」を通し問題解決の力が育まれるので、これを小学校、中学校、さらにはビジネスに広げる中で、地域や若者がつながっていけばいい |
| 平成29年度森林・林業施策懇談会(春) ＜林務部＞ | H29.4.27 | 林業関係団体関係者 | 60 | 産業・雇用 | <ul style="list-style-type: none"> ・森林・林業の施策になくてはならないインフラ施設について、今あるものを大事に使用していく、将来にわたり末永く使用していく ・森林資源、木材生産、木材産業、木材利用、それぞれの持続性の維持 ・長野県の里山を見て「きれいに整備されている」「林の中に入りたい」「木に触ってみたい」と思うような姿を残したい ・県の森林が10年、20年、そして未来永劫健全に存在し、安定的な木材の供給や、多面的機能を万度に発揮するには、年齢の平準化を図ることが課題 ・県産材の新たな利用を目指した研究開発事業・県産材を流通・使う側の人材育成について取り組んでほしい ・フォレストワーカーやフォレストリーダーなどが敬われる社会づくり |
| 長野県薬物乱用対策推進協議会 (アンケートを実施) ＜健康福祉部＞ | H29.4.27 | 協議会委員 | 11 | 産業・雇用 | <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代が安心して子どもを預けて働ける環境づくりが大切 ・大学で学んだことが就職につながらず他県に出てしまった事例がある。多様な事業を行う企業の誘致が必要 |
| | | | | 社会基盤 | <ul style="list-style-type: none"> ・道路整備や鉄道高速化等による交通網の整備 ・空き家が増える中で、大切なのは近隣・地域のコミュニケーション ・松くい虫対策により松枯れを防止し美しい信州を目指す |
| | | | | 健康・福祉 | <ul style="list-style-type: none"> ・安心して年が取れる信州。医療・福祉の充実。食生活・運動・医療の三位一体の取組 ・自殺する人がいない信州 |
| | | | | 教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域と学校が今以上に子どもの安全・安心を確保し、豊かな心を育む教育を推進 ・観光立県、スポーツ立県を目指す |
| | | | | 子育て | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの貧困への支援をしっかりと行うとともに、社会性を養えるような場所づくりが必要 |

| 会議名 | 日時 | 参加者 | 人数 | 分野※ | 主な意見 |
|---|----------|----------------------|----|-------|---|
| 上伊那地域中小企業支援機構等 連絡会議 ＜上伊那地域振興局＞ | H29.4.27 | 商工会議所員、市 町村職員等 | 40 | 産業・雇用 | <ul style="list-style-type: none"> ・IoTといったICT等の技術革新により、人の営みが豊かになってほしい ・観光地や名物の食などの点と点をつなぐ、周遊観光に対応した交通手段の整備 ・地元で育った人が地元就職する、後継者不足の解消など、人材確保への取組が必要 ・産学官、企業間等のネットワークづくりが必要 |
| 拡大版地域振興会議 ＜南信州地域振興局＞ | H29.4.27 | 地元県議会議員 | 5 | その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・今回策定する地域編は、是非、地域の皆さんが自分たちの計画であると感じられるようなものにしてもらいたい |
| 市政農政担当課長・市農業委員会 事務局長・JA営農担当部長会議 ＜松本地域振興局＞ | H29.4.27 | 市村農政担当課長 ほか | 20 | 産業・雇用 | <ul style="list-style-type: none"> ・国内で自国農業を守り支える文化が定着し、国産農畜産物が適正価格で流通することにより、農業者所得水準が向上すればいい ・長野県の強みの産業(精密機械、観光、農業など)を活かしたまちづくり |
| | | | | 地域づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・子育てや、防災面が安心出来る若者が住み続けられる環境づくり |
| | | | | 子育て | <ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代に魅力のある環境づくりにより、若い世代の移住者が増えれば良い |
| 松本透信濃美術館整備担当参与 との意見交換会(小諸会場) ＜県民文化部＞ | H29.4.26 | 一般県民 | 25 | 健康・福祉 | <ul style="list-style-type: none"> ・平均寿命100歳世界一番のり を目標に。100歳まで生きなければ達成できない目標づくり |
| | | | | 教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・年齢制限なしの学びの場があれば良い |
| 若者との意見交換 ＜北アルプス地域振興局＞ | H29.4.26 | LODEC japan代表 | 1 | 地域づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・地域づくりに携わる団体は、公的資金がなければ活動が継続できない状況。地域づくりに携わる団体が、その活動で生活していけるような仕組みがあれば、地域活性化につながるのではない ・移住・定住について行政が全て行う必要はない。官民それぞれの強みがあるはずなので、それを活かしながら取り組めればいい |
| 建設業協会中高支部通常総会 ＜北信地域振興局＞ | H29.4.25 | 会員 | 20 | 社会基盤 | <ul style="list-style-type: none"> ・迅速な除雪・排雪のためには、道路管理者によって異なる除雪事業者・体制等の連携を進めるべき |
| 長寿社会開発センター上伊那地区 賛助会 ＜上伊那地域振興局＞ | H29.4.24 | 賛助会員 | 40 | 産業・雇用 | <ul style="list-style-type: none"> ・地元で育った人が地元で働いたり、地元に戻ってくる地域にするための、Uターン対策や小中学生に地元の良さを知ってもらう事業の実施 ・南信工科短期大学の4年制化など、レベルアップへの取組が必要 ・個々の部品だけでなく、製品まで作る企業の誘致が必要 ・ここにしかないもの、ここでしか食べられないもの等をそれぞれの市町村に目玉を作る |
| | | | | 安全 | <ul style="list-style-type: none"> ・振込詐欺等の被害のない生活を送れるために、市町村と県消費生活センターとの連携を図るとともに、消費生活に関することも計画に位置付け、しっかり対策を行うこと |
| Iターン就農者等情報交換会 ＜北信地域振興局＞ | H29.4.24 | 管内Iターン就農者 ほか | 9 | 産業・雇用 | <ul style="list-style-type: none"> ・地消地産の推進により、農家の収入アップや農福連携の促進にも繋げる ・学校給食や病院、介護施設の食材を地元産の野菜に置き換える ・地域の強みである果物活用による地域活性化 ・都市部での地域の魅力発信を兼ねた直売の実施や、農業体験を通じた観光振興 |
| | | | | 社会基盤 | <ul style="list-style-type: none"> ・除雪体制の整備や、ガソリン価格が高いなど、若い人が住みづらいと感じる課題の克服 |
| 小谷村中谷地区との意見交換 ＜姫川砂防事務所＞ | H29.4.24 | 小谷村議、民宿経 営者、小谷村職員 | 3 | 社会基盤 | <ul style="list-style-type: none"> ・土砂流出を防止するためには、緑化が望ましい。地域住民が主体となって植林による緑化を図ることで、景観を取り戻し、里山を保存していきたい ・修学旅行生など都市部の住民との交流も図りながら植林による緑化を行いたい |

| 会議名 | 日時 | 参加者 | 人数 | 分野※ | 主な意見 |
|---|----------|---------------------|----|-------|--|
| 市村観光担当者及び関係団体 担当者会議 ＜松本地域振興局＞ | H29.4.20 | 市村観光担当者、 関係団体担当者 | 40 | 産業・雇用 | ・市町村ごとのばらつきはあるが、総じて一定の観光資源があるので、それらの有効な活用を図るべき |
| 市村商工担当者及び商工団体 担当者会議 ＜松本地域振興局＞ | H29.4.20 | 市村商工担当者、 商工団体担当者 | 52 | 産業・雇用 | ・関係団体の職員同士が連携を深めるなど、人と人とのつながりが商工の振興や活性化につながる |
| 北信地域農村女性セミナー ＜北信地域振興局＞ | H29.4.20 | 農村女性 | 7 | 産業・雇用 | ・若い人や子育て世代がもっと農業に携わり、農業の素晴らしさが再認識されればいい ・1ターン就農者を受け入れる体制の確立・充実 ・農業で生活できる人が増える(伝統野菜をメジャーにするなど) ・夏場のインバウンド地域になれば良い |
| | | | | 地域づくり | ・除雪、克雪体制を整えたり、雪を資源として利用したりする ・世代間を問わず触れ合える場ができ、交流が活発になっていけばいい |
| 民間企業の新入社員研修の施設 見学 (アンケート実施) ＜企業局 (松塩水道用水管理事務所)＞ | H29.4.19 | 民間企業の新入 社員 | 19 | 地域づくり | ・長野県の自然の美しさが好き。自分の子どもにも長野県の良さを感じてほしい ・日本の四季を思う存分味わうことができる地域になってほしい ・程よく都会的なお店があれば良い |
| | | | | 社会基盤 | ・車以外の交通手段の増加 |
| | | | | 健康・福祉 | ・近所の人を気にしてあげられるような関係づくり。デイサービスセンター等の施設を増やす |
| 長野のみらいを創るキラッと女性 プラットフォーム懇談会 ＜県民文化部＞ | H29.4.18 | 県内で活躍する 女性 | 10 | 子育て | ・商業施設の一部に子育て相談窓口を設置(「買い物ついで」に気軽に行けるように)するなど、安心して子育てできる環境の整備 ・企業内託児の整備促進や、再就職や企業・就農のきっかけづくりなどを母親も学べる場の併設など、子育て中も働き続けることが出来る環境の整備 |
| 農業大学校果樹研究科講義 ＜農政部＞ | H29.4.18 | 農業大学校 果樹研究科生 | 5 | 産業・雇用 | ・摘果や収穫等の単純な農作業は、人口知能を持つ機械が行うことで生産者の負担が減り、経営面積の拡大が図られる ・地域内で生産から加工、販売、観光、農業体験ができる総合的な生産団地が各地にでき、それぞれが特色ある生産を行う ・摘粒が不要なブドウや摘果が不要なリンゴなど、省力的で食味の良い品種が主力品種になり、軽労化が図られる ・若者の果物消費量が劇的に増加する |
| 林業関係女性との意見交換 ＜林務部＞ | H29.4.18 | 林業関係者(女性) | 3 | 産業・雇用 | ・特に現場の林業従事者が、向上心や生きがいを持ち続け、仕事に誇りを持って取り組める ・林業の担い手育成においては、具体的に、どのような人材を、どこでどのように育てるかを明確にすることが必要 ・事業主や経験者の意識改革を目的とした再教育システムによる林業界全体のレベルアップ、スキルアップが必要 |
| | | | | その他 | ・政策検討は、バックキャストの考え方が必要 |

| 会議名 | 日時 | 参加者 | 人数 | 分野※ | 主な意見 |
|----------------------------------|--------------------------|---------------------|-----|-------|--|
| 健康福祉部現地機関の長会議 ＜健康福祉部＞ | H29.4.17 | 健康福祉部現地 機関の長 | 25 | 健康・福祉 | <ul style="list-style-type: none"> ・医療人材の偏在は地域だけで解決することは困難であり県レベルでの取組が必要 ・県民の安全安心のためには感染症等の衛生検査体制整備が重要 ・医療的ケアが必要な児童への対応として在宅看護・訪問看護を担える人材育成が必要 ・各種相談への対応は窓口との連携・情報共有が重要 ・発達障がい児の就労支援、発達障がい者への支援が必要 ・長野県は元気な高齢者が多く、全国の手本となっている。強みを伸ばすべき ・女性登用として女性保健師を積極的に登用すべき ・産科以外の医師確保対策も重要 |
| 「ブッポウソウ里の会」との意見 交換 ＜環境部＞ | H29.4.16 | ブッポウソウ保護に 取り組む会員 | 10 | 地域づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・中央アルプスがジオパークになったが、これをどう生かしていくかが大事。地域の活性化や経済発展にもつながると良い ・条件の良い業種に人材をとられてしまい、福祉や製造業に人が来ない。東京オリンピックによる首都圏流出も心配 |
| | | | | 環境 | <ul style="list-style-type: none"> ・里山などは人の手が入ることにより美しく保てるので、そうした取組へのモチベーションを上げる意識啓発が必要 ・環境保護の取組には人の育成が大切なので、環境教育の推進など意識して取り組む必要がある |
| 上小養蜂連絡会視察研修 ＜農政部＞ | H29.4.15 | 上小管内の養蜂 農家 | 16 | 産業・雇用 | <ul style="list-style-type: none"> ・温暖化対策や農地の荒廃防止など、山間地農業を守る仕組みが出来ている ・信州の特産物であるハチミツの価値向上 ・レンゲ栽培が復活し、春にはピンク色の絨毯が広がったり、河川敷にアカシヤが広がる風景 ・農業、養蜂、地域を守る会等の担い手が増える |
| 新規採用県職員対象 キャリア形成研修 ＜企画振興部＞ | H29.4.14 4.21 4.26 | 新規採用県職員 | 180 | 産業・雇用 | <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ合宿などで県内に来た人に長野らしい食を提供 ・東京以上にWiFiが繋がるなど、特化した施策で県を盛り上げる ・起業する若者を支援し、第2のふるさとにしよう ・長野県には産業を発展させる基盤があるので、人材育成を積極的に行い、さらなる質の向上や、産業に関する情報共有システム整備などにより、長野県ならではの産業を目指す ・長野県を代表する農業を守るため、県民全てを兼業農家化 |
| | | | | 地域づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の資源や可能性を伸ばし、誇りに感じ、自慢できるようにしたい ・多くの外国人を惹きつける魅力ある県になりたい ・市町村同士の連携や、他県との連携をもっとできるように ・他県の人が、行きたい、住みたい、骨をうずめたいと思える長野県 ・若者がプライドを取り戻す必要がある(特に産業、生活、自然の3つのプライドを伸ばす) ・都会と勝負するのではなく、特徴を活かす ・多様なライフスタイルを受け入れ、地域格差をなくすことで、住みやすさを向上させる ・おいしい(農産物)、たのしい(魅力的な観光)、住みやすい(福祉施設・保育園の充実)のそれぞれの長野ブランドを合わせて、信州をみんなのふるさとに ・一人の人生が0歳から100歳まで長野で完結 ・教育(大学)～子育てを充実させて、途中から長野に来て住みやすい環境に |

| 会議名 | 日時 | 参加者 | 人数 | 分野※ | 主な意見 |
|--|----------|---------------------|----|---------|--|
| (新規採用県職員対象 キャリア形成研修) | | | | (地域づくり) | ・人口70万人でもしあわせに暮らせる信州 ・老人ホームと保育園を合体する |
| | | | | 社会基盤 | ・車がなくても移動でき、地震などの災害への対策が充実しているまちづくり |
| | | | | 子育て | ・共働き世帯の子育て支援として、高齢者に活躍してもらおうなど、みんなで子育てをする地域に |
| 松本透信濃美術館整備担当参与 との意見交換会(松本会場) ＜県民文化部＞ | H29.4.13 | 一般県民 | 35 | 地域づくり | ・車が運転できなくても、思う場所に自由に出向き、帰宅できる社会 ・「水」と「空気」が宝である自然豊かな信州で、心豊かな人生が送れ、何より自分自身が幸せな日々であること ・県は、市町村のロールモデルになってほしい。市町村の方が動きやすい部分もあると思うが、リーダーがいると心強い |
| | | | | 文化 | ・信州独自のオリジナル性が大切。文化は海外を参考にしなくても、歴史・風土の中から素晴らしいことは沢山ある ・地域の民度が上がり、誰もが、文化芸術を気軽に楽しめるようになってほしい ・現代美術家が文字通り食べていける自治体 |
| きのこ生産者との意見交換 ＜農政部＞ | H29.4.13 | 上田市真田地域 エノキタケ生産者 | 8 | 産業・雇用 | ・関係機関や大学等との研究体制の強化などにより、価格が維持されるきのこの品目、品種の開発 ・高齢者に好まれる、食べやすく、おいしく、健康にもよいきのこの品目、品種の開発 ・若い人が取り組み、お金が取れる農業 |
| 商工連合会安筑支部理事会 ＜松本地域振興局＞ | H29.4.12 | 理事 | 12 | 社会基盤 | ・域内交通のほか、広域的なルートの整備 ・東信－中信間など、道路網の弱い広域間の連結 |
| 上小地域農作物等災害担当者 会議 ＜農政部＞ | H29.4.11 | 市町村、JA、 のうさい等 | 12 | 産業・雇用 | ・荒廃農地を増やさず、現状維持に努める ・大規模農家より小規模農家が集まって地域で農地・農業を守るような仕組みづくり ・研修の充実などによる若手農業者の質の向上 ・認定農業者への認定促進施策やメリットの明確化により、地域に認定農業者があふれる ・小規模でのほ場整備事業の推進やほ場整備済みのうちの荒廃防止対策により、ほ場整備済みの農地であふれる |
| りんご高密度植わい化栽培研究会 ＜農政部＞ | H29.4.5 | 全農長野、 JA技術員 | 25 | 産業・雇用 | ・果樹産業で長野県の景観を維持、向上し、県外や外国から多くの人を訪れる ・機械を利用した省力・軽労型栽培技術で楽しく農業ができる ・家族経営が可能となる収益確保のための技術開発 |
| 諏訪湖創生ビジョン地域懇談会 ＜諏訪地方事務所＞ | H29.3.23 | 環境活動団体、 行政機関など | 70 | 環境 | ・常に費用対効果、温暖化による自然変化への対応を念頭においた体制づくり |
| | | | | 健康・福祉 | ・健康増進地域として認知され、日本で一番健康長寿の地域になる |
| | | | | その他 | ・県政、市町村行政が連動できる体制づくり |
| 諏訪湖環境改善行動会議 ＜諏訪地方事務所＞ | H29.3.21 | 環境活動団体、 行政機関など | 70 | 環境 | ・自然と共生された山、湖、川、農地、市街地がバランスよく共存、発展する地域 ・諏訪湖の漁業は、今後日本海での漁業でさえ東アジアの国々との競合がますます多くなるため、内水面漁業の必要性が増すことは必至 |

| 会議名 | 日時 | 参加者 | 人数 | 分野※ | 主な意見 |
|--|----------|---|----|-------|---|
| 「小布施若者会議」教育 プロジェクトメンバーとの懇談 ＜教育委員会＞ | H29.3.20 | HLAB代表理事、 NPO法人代表、私 立高校教員、地域 おこし協力隊員、教 材会社経営者など | 8 | 教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・学年間や学校間などの多様性を活用して、違いから学ぶ仕組みができないか ・生徒には色々な人が関わるべきだが、地域の中での生徒の様子を教員も把握できると良い ・教育は大学受験のためのものではなく、生きるためにあるべき ・意欲を引き出すために、自分が必要とされている、興味を持って話を聞いてくれる人がいるという機会を増やすことが必要 ・意欲は先天的に決まるものではなく、興味を持つきっかけに出会えるか ・子どもたちが自ら意思決定を行う機会が大事 |
| 信州高校生作戦会議2017 ＜教育委員会＞ | H29.3.18 | 県内の高校生、 大学生、教員、 教育関係者 | 60 | 教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校はもっと社会に開かれるべき ・「学ぶ」ことは生きていくこと。幅広く学ぶことで、将来の様々な可能性に対応できる ・多様性を認めるような教育を進めていくことが重要 ・学校での教育活動と社会の様々な活動のコラボで、「学びに向かう姿勢」や「思考力・判断力・表現力」を育成 ・グループ学習を学校で積極的に取り入れ、生徒に協働して何かを創り上げる楽しさを学ばせる |
| 「富士見 森のオフィス」関係者との 意見交換 ＜企画振興部＞ | H29.3.17 | 移住者、二地域 居住実践者など | 12 | 地域づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・今後は、移住者を増やすより、移住者と地元の人が融合し、多様なライフスタイルを実現できるかが問題 ・移住者を呼ぶからには、職と住が整っていることが大切 |
| | | | | 環境 | <ul style="list-style-type: none"> ・他県より1歩、2歩先を行くエネルギー施策をやってほしい |
| | | | | 教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・働くことに対するイメージを小さい時から描き、体験する場が重要 ・どんな環境の変化であっても働けるスキルを磨くことが重要 ・老人・子ども双方が学び合える環境が長野県にはできる |
| | | | | 子育て | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが自分の故郷として選んでもらえるような地域になればいい |
| 長野県青少年問題協議会 ＜県民文化部＞ | H29.3.17 | 協議会委員 | 10 | 教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ教育の推進(発達障がいへの理解) |
| | | | | 子育て | <ul style="list-style-type: none"> ・全ての子どもたちを対象とした、0歳から就業支援まで、切れ目のない支援の全県的広がり ・学校行事やPTA等に参加しやすくするための企業からの支援や、子育てにおけるメディア接触のあり方の研究など、保護者が子どもと向き合うことのできる環境づくり |
| 「地域を支える調査・設計業」検討 会議 ＜建設部＞ | H29.3.16 | 日本補償コンサル タント協会長野県部会 | 30 | 産業・雇用 | <ul style="list-style-type: none"> ・UターンやIターンの人たちが地域社会で活躍できる長野県 ・生活の基本となる収入を得る場所がなければ定住できない。仕事場の確保が必要 |
| | | | | 地域づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの声があちらこちらで聞こえる地域 ・特色を活かした活力ある地域 |
| | | | | 環境 | <ul style="list-style-type: none"> ・一年を通して素晴らしい環境を売りに、今以上に県外・国外にアピールし、観光客を増やす |
| | | | | 教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・県内で上手くいった取り組みを参考に小学校改革を実施 (山村留学事業に力を入れることで地域活性化、民間の塾とコラボした魅力ある教育) |
| 長野県土地改良事業団体連合会 下伊那支部協議会 ＜下伊那地方事務所＞ | H29.3.14 | 協議会会員 | 16 | 社会基盤 | <ul style="list-style-type: none"> ・農業水利施設の長寿命化や農地の減災・防災を推進したい |

| 会議名 | 日時 | 参加者 | 人数 | 分野※ | 主な意見 |
|---|----------|--|----|-------|--|
| 地域のキーパーソンとの意見交換 ＜北安曇地方事務所＞ | H29.3.8 | NPO法人みとろクリエイト理事長 | 1 | 産業・雇用 | ・(H28年度に自家産の農産物加工品が北アルプス山麓ブランドに認定) 今後は、こういったブランド認定をきっかけに、販路拡大を図りたい |
| | | | | 子育て | ・介護慰労金のように、家庭で育児をする人に手当を出せる制度や、保育料分を家族に差し上げるといふ支援があれば良い |
| みんなで支える森林づくり南信州 地域会議 ＜下伊那地方事務所＞ | H29.3.1 | 委員 | 7 | 産業・雇用 | ・若い人が林業に魅力を感じられるような方法を考えないといけない ・若い人たちが徐々に林業に慣れるような研修の場づくりに、森林税が使えないか ・林業体験等で若いうちに林業の楽しさが分かる場があれば、後継者が生まれるのではないか ・地域でもみんなが頑張れるような補助金(税金)の使い方が出来れば良い |
| 大北地域農業農村振興検討会 in松川村 ＜北安曇地方事務所＞ | H29.2.23 | 松川村経済課 | 7 | 産業・雇用 | ・農産物(特に米)を有利販売するために“環境にやさしい農産物認証”等差別化する取り組みを積極的に進めているが、有利販売につながっておらず、課題となっている |
| 大北地域農業農村振興検討会 in大北農業協同組合 ＜北安曇地方事務所＞ | H29.2.23 | 大北農協職員 | 2 | 産業・雇用 | ・大規模米農家への集積によるコスト低減は限界にきていると分析している。中規模米農家(作付面積10ha程度)の生き残り策として、いかに園芸作物を作付けしてもらうか、そのために何を支援しなくてはいけないかという立場で支援を考えている ・地域での農産物の生産自体が落ちてきているので、輸出に回せる余裕がなくなっている。国内生産、国内消費にもっと地道に取り組んでいいのではないか |
| 大北地域まちづくり産業に係る 勉強会 ＜北安曇地方事務所＞ | H29.2.22 | 赤田工業(株) (株)草深製作所 池田町商工会 松川村商工会 池田町、松川村 | 13 | 産業・雇用 | ・今後、少子化により人材確保がますます難しくなると予想されるが、外国人労働者が企業で大きな役割を担うと予想される。外国人労働者の人材育成を地域全体で行えば個々の企業の負担を軽減できる ・今後の労働力不足の対応としては、向上のオートメーション化や身体障がい者、高齢者の採用等が考えられるので、行政でもこの点について考える必要がある |
| H28長野地域観光戦略会議 ＜長野地方事務所＞ | H29.2.21 | 商工会議所、観光 団体、市町村職員 等 | 40 | 産業・雇用 | ・転入者や移住創業者のネットワークづくり支援 ・看板等の多言語化、ユニバーサルデザイン化 ・二次交通の整備、ガイド付き個別輸送等、多様化するニーズへの対応 ・山岳コースを自転車(オートバイ)で楽しむ仕掛けづくり ・農商工連携による着地型旅行商品の造成 |
| 大北地域農業農村振興検討会 in池田町 ＜北安曇地方事務所＞ | H29.2.16 | 池田町振興課 | 4 | 産業・雇用 | ・高品質な酒米生産により、地元農家と地元酒蔵との直接取引が進めば、地元水稻農家の安定収入確保につながると考える。高品質な酒米生産の技術の実証と松川村と共に輸出に向けての施策の推進が必要 |
| 大北地域農業農村振興検討会 in大町市 ＜北安曇地方事務所＞ | H29.2.16 | 大町市農林水産課 | 2 | 産業・雇用 | ・中山間地では、近い将来、機械があっても担い手としてのオペレーターが不足することが懸念されている。建設業者を対象にしたオペレーター部会の設置検討や、機械を使いこなせる(乗りこなせる)40～50歳代のオペレーター要請が急務 |
| 第2回長野県食と農業農村審議会 ＜農政部＞ | H29.2.14 | 審議会委員 | 12 | 産業・雇用 | ・真に守るべき農地を明確にし、施策を重点化する ・長野県には良い農産物が多くあるので、他県と差別化できるマーケティングを ・新しい発想や感覚を持った若者を応援する視点が大切 |

| 会議名 | 日時 | 参加者 | 人数 | 分野※ | 主な意見 |
|---|------------------|----------|-----|-------|---|
| 大北地域農業農村振興検討会 in小谷村 ＜北安曇地方事務所＞ | H29.2.10 | 小谷村観光振興課 | 4 | 産業・雇用 | ・(小谷村では平成30年度に山菜加工場の建設を予定)山菜の付加価値を高めて販売するためには原材料の現地からの確保や、極端に高齢化が進む過疎地域での野菜等の生産振興の展開が課題 |
| 大北地域農業農村振興検討会 in白馬村 ＜北安曇地方事務所＞ | H29.2.10 | 白馬村農政課 | 5 | 産業・雇用 | ・農家負担をなくすためのほ場整備要件として高収益園芸作物の作付けが必須要件。今後、同様の基盤整備が主流になると予想され、水田地帯への園芸作物導入のための品目選定と営農計画作成支援・栽培技術支援が必要 |
| 市民活動応援協議会 ＜県民文化部＞ | H29.2.7 | 協議会会員 | 19 | 地域づくり | ・市民活動等が盛んになって、皆で「しあわせ信州」をつくるための活動ができればいい ・お互いの顔の見える範囲で、「生活」も「仕事」も「買い物」も間に合う地域でありたい ・「便利さ」も必要だが、「不便なこと」「手のかかること」も大切にする社会にしたい |
| | | | | 健康・福祉 | ・高齢になり、介護が必要になったとき、近くにおいて支えてくれる人や団体があってほしい |
| シニア大学大北学部 ＜北安曇地方事務所＞ | H29.2.1 | 学部生 | 60 | 地域づくり | ・大学や専門学校があり、若い人の働く場もあり、若い人にとって魅力あるまちづくり |
| | | | | 産業・雇用 | ・観光産業への帰国子女の活用 ・給与の引き上げ、社会保険制度の確保 |
| | | | | 社会基盤 | ・コミュニティバス、デマンドバス、利用予約システム等ICT活用による利便性向上 |
| | | | | 健康・福祉 | ・医療機関や医師の確保 ・高齢者の多様なニーズに応えるきめ細かな支え合いシステムの構築 |
| | | | | 子育て | ・子育ての相談に乗ってくれる場所の充実と、教育費・子どもの医療費の無料化。子どもに対する手当の充実 |
| 「学びの改革 基本構想(案)」に係る高校生との意見交換 ＜教育委員会＞ H29.1.15北信、H29.1.22南信 H29.1.29東信、H29.2.5中信 | H29.1.15 ～2.5 | 各地区高校生 | 192 | 教育 | ・地域や他校との交流、他学級・他学年との交流を促進させたい ・行事や部活動を活性化させるための学校規模を維持 ・教科のつながりが感じられる授業の実施 ・長野県の良さを教えたり、地域を題材にした授業の実施 ・地域の人や外国人を講師とした授業の実施 ・少人数授業を実施することで質問しやすくなるなど、学びの質が良くなると思う |

【拡大版地域戦略会議】

拡大版地域戦略会議：次期総合5か年計画に市町村長の意見を反映させるため、地域振興局ごとに市町村長と知事が意見交換を行うもの。

| 地域振興局 | 日時 | 参加者 | 人数 | 分野 | 主な意見 |
|-------|----------|--|----|--------|--|
| 佐久 | H29.6.1 | ・管内市町村長 ・オブザーバー (県議会議員、広域連 合事務局長、町村会 事務局長) | 23 | 総論 | <ul style="list-style-type: none"> ・全県計画と地域計画に同じことを書くのではなく、地域計画は内容を絞るべき ・地域編を地域全体で1本にまとめるのは困難なので、地域特性により2本立てにすることも考えてはどうか |
| | | | | 地域づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・「健康」と「観光」のように異なる分野の施策連携が必要ではないか ・有名観光地に来た人をどう周辺地域へ誘導するかが課題 ・畜産環境対策を始めとした畜産振興 ・林業従事者の確保と伐期を迎えたカラマツの利用促進 ・企業誘致をするとき、事業所を置く所と従業員の居所を分けて考え、地域で役割分担してはどうか ・中山間地を元気にすることは計画の大きなテーマ ・移住・定住の推進に加え、二地域居住の推進、またそのための公共交通整備が必要 |
| | | | | 社会基盤 | <ul style="list-style-type: none"> ・中部横断自動車道の整備促進 ・高齢者の足を確保するため地域公共交通が重要 |
| | | | | 健康・福祉 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療を担うための医師の確保 |
| | | | | 教育・子育て | <ul style="list-style-type: none"> ・教育、医療が充実している地域には人が集まる。 ・地域の学びの場の確保と高校再編のあり方については十分考慮すべき ・各地にある大学のセミナーハウス等の利用促進や有効活用を検討 |
| 上田 | H29.5.29 | ・管内市町村長 ・オブザーバー (県議会議員、広域連 合事務局長) | 14 | 産業・雇用 | <ul style="list-style-type: none"> ・東信州次世代産業振興協議会でイノベーション創出に努力。産学官「金」連携へ ・食について、横断的な取組が必要 ・インバウンドを長続きするには、アウトバウンドを含めた双方向の関係構築が必要 ・新ゴールデンルート(北回りルート)での長野県の位置づけを高める努力が必要 |
| | | | | 地域づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・空き家、自治体の遊休施設の有効活用を県・市が一体となって考える必要がある ・群馬県の嬭恋村など、県外市町村との連携を |
| | | | | 社会基盤 | <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進展する中、地域の公共交通確保を検討する必要がある ・町村レベルでの企業誘致は非現実的。住む場所として居住環境整備を重点的に実施 ・地方での保育士確保が喫緊の課題であり、保育士の待遇改善が必要 ・国道143号を工事路線に。新和田トンネル、三才山トンネルを無料化する |
| | | | | 健康・福祉 | <ul style="list-style-type: none"> ・信州上田医療センターを医師確保の拠点とし、周辺部の病院と連携を |

| 地域振興局 | 日時 | 参加者 | 人数 | 分野 | 主な意見 |
|-------|----------|--|----|--------|---|
| | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・医療は地域編でも位置づけ、地域できめ細かな連携の仕組みを構築する必要がある |
| | | | | 教育・子育て | <ul style="list-style-type: none"> ・湯の丸高原、菅平高原に高地トレーニング、スポーツ合宿を呼び込む ・子育てするなら長野県とアピールが足りない |
| 上伊那 | H29.5.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・管内市町村長 ・オブザーバー (広域連合事務局長) | 18 | 産業・雇用 | <ul style="list-style-type: none"> ・農業はこれまでと違った切り口での注力が必要。観光面も含め、特に「食」の切り口が大切 ・気候や地形も踏まえて、自然農法・有機農法に注力した農業の展開 ・10年後に起こる技術革新の情報の収集・発信しつつ、できることを考える必要がある ・地域全体として自給率を上げ、安全・安心を確保する ・第一次産業と第二次産業の両方が発展している強みを伸ばす ・リニア開業を見据え、伊那谷の景観を世界規模のリゾート地として打ち出していく ・IoT、AIに関する取組やスマート農業・林業も進んでいる。「スマートバレー」というイメージで世界に売り出したらどうか |
| | | | | 地域づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・「山」を上伊那の共通の言葉として、自然環境の素晴らしさを世界に発信していく ・実効性を高めるために、県と市町村との役割分担を明確にする必要がある ・今住んでいる人が地域の魅力に気付き、住み続けたいと思うことが大事 ・若者の定着のためには楽しい場所は重要であり、民間投資がしやすい環境づくりが大事 ・リニアを活用し、交流人口が増えたり、移住・定住が進むことを期待 ・村外へ出て行った地元出身者への地元の情報発信 |
| | | | | 環境 | <ul style="list-style-type: none"> ・木質バイオマスや小水力発電などに力を入れて全国トップランナーとなるような取組が必要 |
| | | | | 社会基盤 | <ul style="list-style-type: none"> ・国道153号BPに自動運転専用レーンを設け、リニア長野県駅と上伊那地域を結ぶといった最新の交通システムが必要 |
| | | | | 健康・福祉 | <ul style="list-style-type: none"> ・医療がしっかりしていないと人は戻ってこない。医療は地域によって状況が異なる |
| | | | | 教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもや若者に戻ってきてもらうような教育が重要 ・国体招致に合わせて、市民レベルのスポーツ振興を |
| 南信州 | H29.5.15 | <ul style="list-style-type: none"> ・管内市町村長 ・オブザーバー (県議会議員、広域連合事務局長、広域消防本部長) | 28 | 総論 | <ul style="list-style-type: none"> ・県内の地域の多様性を大切にし、活かす ・小さな自治体が多いからこそ、県がやること、市町村が県と一緒にやること、広域連合がやることの整理をすべき |
| | | | | 産業・雇用 | <ul style="list-style-type: none"> ・リニア開通を見据えた産業の集積。航空宇宙やICT産業などが大きく育つことを期待 ・航空宇宙産業も絡めた星や空を活かした観光振興 ・企業誘致から有為な人材誘致への転換が必要 |
| | | | | 地域づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・イノベーションの中核になる人材を評価していることを発信し、そうした人材を集める地域に |

| 地域振興局 | 日時 | 参加者 | 人数 | 分野 | 主な意見 |
|-------|----------|---|----|--------|--|
| | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・地域間連携という視点が大切。三遠南信地域での県境を越えた広域連合を検討 ・リニア開通を控え、暮らし方や働き方等で全国で一步進んだ地域、世界に開かれた地域に ・南信版のダーチャ(ロシアの庭園付き簡易別荘)を作り、都市との交流人口を増やす ・女性が楽しく暮らせる地域 |
| | | | | 社会基盤 | <ul style="list-style-type: none"> ・ICT環境の整備やICT教育を進めることで、暮らしやすい地域に ・ICTを活用した高齢者の見守りを強化したい |
| | | | | 教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・「教育県」の復活(ICTの先端教育 等) ・地域の高校のあり方重要。コミュニティスクール化して地域に開かれた存在にする。 ・中山間地域で子どもが少ないことを逆に活かす |
| 木曾 | H29.5.15 | ・管内町村長 ・オブザーバー (県議会議員、広域連 合事務局長) | 26 | 総論 | <ul style="list-style-type: none"> ・小さな自治体への支援は今後とも継続してほしい ・魅力ある木曾地域を作るため、6町村で横の連携を図ることが必要 |
| | | | | 産業・雇用 | <ul style="list-style-type: none"> ・木曾全体で連携して観光振興に取り組むべき。南は馬籠宿、北は奈良井宿まではインバウンドも含め多くの観光客が来ているので、木曾の中まで訪れてもらうような連携を ・木曾全体で広大な森林資源を現実的に活用していく施策が必要。丸太に付加価値を付けて出す製材工場が必要(人材も含めて) ・木曾圏域全体で雇用の場を確保しながら地元の人に地元企業へ目を向けさせていく施策が必要 |
| | | | | 地域づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の特徴を活かした人材育成を通じた地域づくりを進めるべき。木曾青峰高校、林業大学校、上松技術専門校など森を守り、育て、利用する学校が集まっている強みを活かして ・1回都会に出て行った若者が戻って来れるような施策が必要 ・若者が来て卒業後も定住してもらえるしくみづくりを ・リニア中央新幹線を活かして地域振興を進めていきたい。リニア駅が中津川にできるが、将来的にはアクセス道路と合わせてダイヤ改正を ・下流域の都市部等と交流を図っているが、自治体レベルからもっと先に進んだ学校や産業界とも連携が必要 |
| | | | | 社会基盤 | <ul style="list-style-type: none"> ・国道19号やJR沿線の景観整備(支障木伐採)が必要 ・国道19号が安全でないと、いくら御嶽山の観光復興をやっても観光客の入込は伸びない ・地方に住んでもらうには医療の充実と交通の便が非常に大事 ・木曾川右岸道路の整備を進めてほしい |
| | | | | 健康・福祉 | <ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心の要である木曾病院の医師不足対策が大きな課題 ・安心の最たるものが医療。広い木曾なので医師が木曾病院に潤沢にいて受診できる体制が必要 ・高齢者になると一番の心配は病院に通う足(交通)の問題や救急時の体制 |
| | | | | 教育・子育て | <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校までは小規模学級が実現しているが、高校段階においても地域校については配慮を ・木曾看護専門学校や林業大学校などコンセプトがしっかりした学校には全国から若者が集まってくる。木曾青峰高校も全国募集すれば若者が集まるのでは |

| 地域振興局 | 日時 | 参加者 | 人数 | 分野 | 主な意見 |
|-------|---|--|----|--------|--|
| 北アルプス | H29.5.17 | ・管内市町村長 ・オブザーバー (県議会議員、広域連 合事務局長、広域消 防本部長) | 21 | 産業・雇用 | <ul style="list-style-type: none"> ・冬・夏だけでない通年観光の取り組みや世界水準の滞在型リゾートへの取組が必要であり、環境へも配慮しながら進めたい。サイクルツーリズムにも取り組みたいので環境整備等も含め県にも御協力をお願いしたい ・現状で観光関係の年間雇用はできない。冬は人手不足だが、夏は仕事不足 ・世界水準を目指すには富裕層の宿泊施設が無い。また、天気が悪い時に行く場所がない。欠けている要素があるので、行政だけでなく、民間にも協力してもらおう ・当地域は「観光」と「農業」が中心。今後どういうビジョンを描いていくか、本音で議論することが必要 ・有害鳥獣対策が課題。駆除する方々が高齢化している。自衛隊や警察のOBなどが活用できないか ・働く場がないとの話があったが、一方で有効求人倍率は高い。人手不足の話もあり、ミスマッチが生じていると思われる ・デュアルワーク(冬は観光、夏は農業)など、今までの枠組みを超えた取組が必要 ・地元企業の人材ニーズを見極めて、高校教育などにより人材の質を確保することが必要 ・企業誘致において、企業は立地と教育環境に興味を持っている |
| | | | | 地域づくり | ・北アルプス地域は環境にも恵まれ、観光客が訪れ、一定の住みやすさをもつ。日本全国では特色のある地域ばかりではない。課題ではなく伸ばせるところに着目 |
| | | | | 社会基盤 | ・松本糸魚川連絡道路の早期整備 |
| | | | | 健康・福祉 | ・医師確保、介護人材確保など地域医療の充実 |
| | | | | 教育・子育て | 当地域には学校法人が無い。家計が厳しく、資格を取りたい子の行き場所が無い |
| 北信 | H29.5.29 | ・管内市町村長 ・オブザーバー (県議会議員、広域連 合事務局長) | 21 | 総論 | ・他県との連携、他の圏域との連携も考えた上で、政策のたたき台を詰めていく |
| | | | | 産業 | <ul style="list-style-type: none"> ・経済活動を活発化すべく、北信地域でも南信のような産業づくりを長期視点で取り組むべき ・ネームバリューのある所を利用して誘客 ・この地域の観光は、面・エリアで考えるだけでは不十分。各市町村が切磋琢磨し作り上げるのが重要 ・信越自然郷の中で、人を多く呼び込める地域とそうでない地域のメリハリをつけた上で、広域で観光政策を考えていくことも大切 ・車いすの人、高齢者の人など、あらゆる人が楽しめるように、スキー場を整備することが必要 ・農業分野と観光分野を越えて、「食」という観点での打ち出しが必要 |
| | | | | 地域づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・雪のため長野に通うのが大変で、長野に住んでしまう。北信地域での自立も必要 ・地域の人々の働く場所を善光寺平全体と捉え、北信地域より広域の視点で考える必要がある ・雪を負の側面だけでなく、地域資源として活用を |
| 社会基盤 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通の運営は市町村にとって、大きな負担となっている。効率的な地域交通を広域で考えなければならない ・県や市町村だけでなく地域とも一緒に考え、学校の空き教室等を積極的に活用する | | | | |

[地域懇談会]

地域懇談会：各種団体のメンバー、地域づくりリーダー、有識者など地域で活躍する方々と局長が意見交換を行うもの。

| 地域振興局 | 日時 | 参加者 | 人数 | 分野 | 主な意見 |
|-------|----------------------|-----------|----|----------------------------|---|
| 佐久 | H29.3.14 | 各種団体の代表者等 | 21 | 農業・林業 社会基盤 産業 | <ul style="list-style-type: none"> 持続可能な林業経営の実現に向けた取り組み 農家の高齢化に加え後継者が都会へ流失する中、農家の負担軽減のための支援 山林が荒廃しないための整備および災害防止のための千曲川の河川整備 中部横断自動車道の未施工区間の早期事業化 会社など最低限の労働の法令順守 「民」が主導、「官」はアドバイザーとしての連携 |
| 上田 | H29.3.13 | 各種団体の代表者等 | 13 | 環境 農業 産業・教育 社会基盤 | <ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電や森林の間伐材を利用した木質バイオマスを重点に自然エネルギーの活用が必要 少子高齢化により、農業経営も曲がり角に来ており、現状の農業環境を打破する必要がある 地元の大学は産学連携により地域産業へ貢献している。一方、工業用地と人材は不足している 災害発生のリスクが高まっており、災害に強い県土づくりを共に担っていきたい。こうした社会基盤の整備が、観光や、産業の流通にも寄与する |
| 諏訪 | H29.2.9 | 各種団体の代表者等 | 26 | 観光 林業 健康・福祉 教育 | <ul style="list-style-type: none"> 高原野菜や医療等を売り込むことにより、外国人旅行者の誘客を促進することが必要 猟友会の会員が高齢化し、捕獲者が減少。人材の掘り起こしが必要。解体処理施設も増えている。リタイア者をハンターに、と県で呼びかけるなど、有効活用してほしい。県外の法人が入札で狩猟に入るような制度は危険 元気な高齢者の社会参加が重要。「生きがいつくり」「健康づくり」「仲間づくり」「地域づくり」の4つの「つくり」活動が老人クラブの理念。活動には多くの方の協力が必要。御指導をお願いしたい 学校と地域との連携を進めることが重要。信州型コミュニティスクールに取り組んでいるが、地域のお祭り、行事への子どもの参画をさらに進めてほしい |
| 上伊那 | H29.4.13 H29.4.18 | 各種団体の代表者等 | 18 | 観光 産業・雇用 環境、安全 農業 | <ul style="list-style-type: none"> 伊那谷は、富良野、阿蘇に並ぶ日本の三大ランドビューだが、地元の人とその魅力に気付いていない 特徴ある企業が多いので、連携して受注・発注という関係性を持ち、上伊那産業のボリュームを大きくすることが必要 ペレットなど上伊那にはエネルギーとして使える材料が多くあり、ライフラインの確保という観点で、安全安心を発信していったらどうか 食と他の分野を組み合わせさせた取組(地元のそば(農業)を使ってガレット)等により、相乗効果が生まれる |

| 地域振興局 | 日時 | 参加者 | 人数 | 分野 | 主な意見 |
|-------|----------|--------------|----|-------------------------|--|
| 南信州 | H29.4.26 | 各種団体の代表者等 | 11 | 環境 教育 観光 地域づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・リニア開通による影響がないか、現時点での生態調査等を全市町村で実施し、調査継続していくことが必要 ・高校から始めても地域への愛着は生れてこないで、小・中学生の時から地域の企業・産業の良さなどを民間の人間が教える必要がある ・まず魅力あるコンテンツを抽出し、それを旅プログラム、地域プログラムとして取りまとめ上げ、その連携により長期滞在可能な地域を作り上げる ・南信州には「癒し」や「非日常」「古き良き文化」などを求めている人が多い。すでにある地域の魅力を高め、活かせるよう体制を整備していくことが必要 |
| 木曾 | H29.4.26 | 各種団体の代表者等 | 12 | 医療 教育 産業 | <ul style="list-style-type: none"> ・各地域に診療所を作ってほしい。安心して暮らせる地域を作るには医療体制の確保が大切 ・拠点病院である木曾病院の充実を。医師、看護師不足で苦勞している。信大医学部を卒業した人は県内で研修医をやってもらうよう県から信大へ働きかけを ・現行の木曾地域編には子供に関することが書いてないが、教育はとても大切。自己実現、何をして生きていきたいかという選択肢が生まれるような教育環境があったらいい ・木曾青峰高校の普通科が1学級になった。人口が減れば学級を減らすということはわかるが、子供がいないところは発展しないと思う ・林業の生産性を上げるのに人手が不足しているので後継者の育成を。また、木曾は高品質の材が多いので、50年100年先を見据えて高価格で安定した供給ができるような施策を ・観光で地域を輝かせるためには、商品化して稼ぐ、自分たちの暮らしを豊かにするという視点が必要。そこは町村が取り組み、県は支援・コーディネートを ・観光業で稼いだ外貨を外に出さず中で使うというしくみがここ5年、10年でできたら人口減に耐えられると思う |
| 松本 | H29.4.26 | 各種団体の代表者等 | 12 | 医療 農業 産業・雇用 観光 | <ul style="list-style-type: none"> ・病床数の減少に呼応し、地域包括ケアシステムの構築や在宅医療等、適正な医療の在り方を考えるべき ・県の特色である醗酵食品加工業と農家のマッチング等は、単なる販路拡大ではなくイノベーションを生み出す連携である ・60歳以上の経営者の半数以上が自分の代で辞めたいと考えている。これは雇用の減少にもつながる問題。生産性の向上と事業継承に関して、大胆な施策が必要 ・安全に関しては登山道や遊歩道、周辺環境に関してはWi-Fiやカード決済、サイン、外国語表記の整備が必要 |
| | H29.5.8 | 管内の地域おこし協力隊員 | 17 | 移住 観光 林業 | <ul style="list-style-type: none"> ・移住までは難しくても毎年遊びに来てくれる人を増やすため、誰でも集まれる拠点づくりが重要 ・空き家改修に対する補助に取り組みればもう少し移住が進むのではないかと ・筑北村で午前中に村内をゆっくり歩く「朝さんぽ」というイベントを始め、今では県外からも参加者が訪れるようになった。「場所に行って名所を見てお土産と買って帰る」観光から「地域を丸ごと体験する」観光に変化してきたと思う ・鹿やイノシシを捕獲しても解体施設が近くにない。捨てるのか埋めるようなことはしたくないので、近くに処理施設があればいいと思う |

| 地域振興局 | 日時 | 参加者 | 人数 | 分野 | 主な意見 |
|-------|----------|-----------|----|----------------------------|--|
| 北アルプス | H29.3.23 | 各種団体の代表者等 | 19 | 移住 観光 地域づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・地域環境を活かした移住・定住の促進。外から呼んだり、若者定着のため、中高生のうちから、魅力を伝えていく ・グリーンシーズンの観光が課題。通年型、滞在型の観光地整備が必要 ・地域社会の持続。地域の問題は地域で解決できる仕組みづくり ・子どもの居場所づくりにおける行政、学校及び民間の連携強化と子供の居場所の人材確保 |
| 長野 | H29.2.3 | 各種団体の代表者等 | 14 | 健康・福祉 産業・雇用 観光 農業 | <ul style="list-style-type: none"> ・医療・介護施設・居宅系サービス事業者・訪問看護等が、それぞれの機能やおかれている状況を知り信頼関係を構築できる対話の場と各種専門職が互いに支援できる体制を検討 ・地域内企業のインターンシップ受け入れ等を増やし、地域内での就職を促進し、安定した生活を保障し、未婚率の加速を防ぐ ・ロングステイ目線での施策構築(ターゲット選定と魅力の整理、受入施設の整備、交通バリア解消、目的別メニューの拡充(自然(農業)体験によるオーナー制度・支援制度など)) ・どこで、何をすれば効率良く収益が上げられるか、市町村、県レベルで農地の利用方法を見直す(鳥獣害を防ぐために山間地は酪農を支援、通勤農業の実践、農地を森林に戻すことも検討など) |
| 北信 | H29.2.23 | 各種団体の代表者等 | 16 | 地域づくり 移住 産業・雇用 教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・子ども、特に中学生の居場所づくり等は、教育分野だけではなく、福祉・医療等あらゆる分野で連携し、繋がっていくことが必要 ・移住者に対する支援だけではなく、その移住者を受け入れた地元地区も支援する制度の創設 ・行政と個人では、就農・移住希望者に対する意識にまだ温度差があるため、意識を統一した仕組みづくりが必要 ・通年で働くことのできる雇用の確保 (サマーシーズンとウインターシーズンにおける雇用マッチング) ・インターナショナルスクールの設立 (外国人が増えてきている中、若い世代の移住希望者は子どもの教育を重視している) |